産業衛生技術部会フォーラム

オキュペーショナルハイジニストの役割と世界的な動向

橋本　晴男
国立大学法人　東京工業大学、キャンパスマネジメント本部、総合安全管理部門

欧米等の多くの国ではオキュペーショナルハイジニスト（Occupational hygienist、産業衛生技術者. 以下、ハイジニスト）が職業として確立され、教育・資格制度、学会などが整い、産業医と並ぶ重要な専門職として労働者の健康確保に貢献している. 一方、わが国ではこのような専門家は目に見える形でほとんど存在せず欧米から大きく立ち遅れている. 化学物質のリスクアセスメント等が義務化された今日、自主・自律的な産業衛生の推進者としてハイジニストを国内でも確立したいとの意見が強くある. ここではハイジニストとは何か, 国際動向, わが国での位置付け等について述べる.

ハイジニストの役割は事業場内の有害因子（化学, 物理, 生物, 人間工学）による健康影響を工学面から評価し管理することである. その中心は諸作業場のリスクアセスメントとマネジメントで, これに管理的, 非定常的, 応用的な役割が加わる. そのイメージは「職場巡視するエンジニア」と言え, 衛生管理者と作業環境測定士の機能を合わせ, 更に法規定以外の事項にも随時対応できる（リスクベースの考え方）高い専門性を持った総合技術者である.

欧米諸国では特に米, 英, 豪が資格制度, 高等教育, 学会活動等で進んでいる. 米国の場合, ハイジニスト数は12,000人（有資格者6,500人）, 二十数校の大学・大学院に専門課程があり, 専門学会（AIHA）の年会には五千人以上が参加する. ハイジニストが欧米で発展した最大の理由はその法制度にある. 化学物質を例にとると, 国がばく露限界値を定め,「労働者のばく露をその値以下にする」ことをその達成方法を示さずに事業者に求めているため, この技術を持つハイジニストが必要となった. 一般には法がハイジニストを直接要求しておらず, 学会資格がデファクトスタンダードとなったものである. ハイジニスト資格を得るには米の（CIH）の場合, 理工系大卒, 専門職経験４年以上, 専門科目の履修180時間（大学外講習は240時間）以上, かつ資格試験（選択式250問, ７時間）の合格, と相当な労力と費用が掛かる. 一方, わが国でハイジニストが発達しなかった理由も同様に法制度にある. 医師（産業医）に対して大きな責任と権限を独占的に与えたが, 工学者が重視されなかった. また, 工学面の法令の規定（例: 作業環境測定）があまりに詳細なため, それに携わる技術職が問題解決型の高度な役割に発展しにくかった. わが国の衛生管理者には「衛生に関する技術事項を管理する（安衛法第12条）」役割が本来あるが, 現実には一部の衛生管理者や労働衛生コンサルタント等を除いてハイジニストのような活動ができていない状況である.

IOHA（International Occupational Hygiene Association）は各国の産業衛生技術の学会を会員とする国際学会で、日本作業環境測定協会（以下, 日測協）と労働衛生工学会を含め計28カ国が加盟している. IOHAはハイジニストの質を保証し国際活動を促進する目的で、加入国の資格認定制度を「国際認証」している. これまでの被認証国は、アジアから香港、マレーシアを含めて15カ国で、日測協の「認定オキュペイショナルハイジニスト制度」も2014年に認証を受けた. またIOHAは関連の団体（OHTA）を通し, 系統的なハイジニスト教育の無料ウエブ講座を設置し国際的に運用している.

わが国でハイジニストは産業医, 産業看護職にとり「産業衛生チーム」の頼れるパートナーとなれる. またハイジニストを今後系統的にしっかり育成すれば, 近い将来, 欧米のようにハイジニスト集団が国の産業保健を牽引し啓蒙する有力な社会的機能に進化し, 産業保健全体の底上げが期待できる. 本講演ではさらに既存法定資格者との違い, わが国の作業場での具体的な問題点との関係, 大学・大学院の専門課程, 産業衛生技術部会での検討経過などを含め, ハイジニストをめぐる現状と課題を明らかにしたい.

演者略歴

東京大学理学部卒. ジョンズホプキンス大学公衆衛生大学院修了. マサチューセッツ大学化学科大学院修了.
東京工業大学 キャンパスマネジメント本部 特任教授.
2015年４月以前は東燃ゼネラル石油（株）（現 JXTGエネルギー（株））産業衛生部長. さらに1990年以前は山陽国策パルプ（株）（現 日本製紙（株））に勤務.
主な資格は, 労働安全・衛生コンサルタント, 認定インダストリアルハイジニスト（米, CIH）.